

a  
q  
u  
@  
m  
u  
s  
e

# アクアミューズ 141 取扱説明書 Ver 2.2



## 目次

はじめに、安全の基本	1
警告、取り扱い上の御注意	2
部品明細図	3
各部の名称	4
購入後必要な艀装	5
セ - リング前の艀装	6
セ - リング	7
沈した場合	8
パドリング	9
部品価格表	10

## はじめに

このたびは、アクアミュ - ズ141をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。この製品はカヌ - とし  
てパドリングを、またデインギ - としセ - リングも楽しんでいただけるように開発したセ - リングカヌ - です。下  
記の「安全の基本」「警告」および「取扱上のご注意」を十分ご理解の上、ご使用ください。

### 安全の基本

- 再帆走のために艇に乗り込むには練習が必要です。パドリング、セ - リング共いきなり海や流れのある川  
にでかけるのではなく、この説明書をよく読んで微風時に安全な場所で練習し、乗り込めることを確認し  
てください。
- 乗艇する時は、必ずライフジャケットを着用して下さい。また、気温の低くなる時期にはドライス - ツやウエ  
ットス - ツを着用して下さい。
- 風や波が強くなってきたときは、なるべく低い姿勢で船底に座って下さい。立ち上がったたりするのは危険で  
す。
- アクアミュ - ズ141でのセ - リングは通常のデインギ - と同様ですから各社から、出版されている入門書  
を参考にして下さい。
- 川でも海でも湖でも風向きや波や流れのために出発点や目的地に行けない場合があります。その時は  
無理をせずに行きよい方向の岸辺に行き、着岸して下さい。
- 気象を予測することが安全の基本です。出艇前に、悪条件が予測される場合は出艇しないで下さい。
- 細かいテクニックよりも、艇と大自然になれ親しむことが上達への早道です。



## 警 告

カヌー（パドルスポーツ）や帆走（セーリングスポーツ）は、場合によっては危険で、死傷を引き起こす可能性のあるスポーツです。この製品を使用する方は、重傷を負ったり、死亡する場合もあることを理解しておかねばなりません。カヌー（パドルスポーツ）や帆走（セーリングスポーツ）を行う際は**以下の安全項目を必ず守るようにしてください。**

- このモデルに合わせたカヌー（パドルスポーツ）や帆走（セーリングスポーツ）のレッスンを受けてください。
- 一人でカヌー（パドルスポーツ）や帆走（セーリングスポーツ）をしないでください。
- この製品を使用される前には必ず取扱説明書を読み、その指示に従ってください。
- 必ずライフジャケット（救命胴衣）を着用してください。
- 必要に応じてヘルメットを着用してください。
- 救急処置法と救急訓練を常に心がけ、それに必要な救急箱、救急道具などを保持してください。
- 水温や気温が低いと、危険な低体温症を起こす恐れがあります。天候に合わせた服装をしてください。
- 毎回使用前には、用具を点検し、摩耗や故障の兆候がないことを確認してください。
- 風が強い時、波が高い時、水かさが増している時のような悪条件下では使用しないでください。
- 水量、水位、干潮、満潮、天候の変化に注意してください。
- 見知らぬ場所、不確かな場所では事前に調査してください。
- 自分の能力以上の行動は謹んでください。
- 健康に問題のある方はカヌー（パドルスポーツ）や帆走（セーリングスポーツ）を始める前に医師にご相談ください。
- 飲酒や心身に影響を及ぼす薬品・薬物を使用してカヌー（パドルスポーツ）や帆走（セーリングスポーツ）を行わないでください。
- 乗艇・脱艇の妨げになるような改造・艀装・積載をさけてください。
- カヌー（パドルスポーツ）や帆走（セーリングスポーツ）は危険を及ぼす可能性のあるスポーツだということを充分理解し、ご注意ください。

## 取扱上のご注意

- カヌーはヨットやボートより軽量でデリケートに作られています。取扱は慎重にしてください。
- 陸上ではデッキや艇内に乗らないで下さい。破損の原因にもなります。
- 保管は出来るだけ裏返しに置き、ハルの変形や歪を防ぐようにして下さい。また、船体表面の変色を防ぐため、使用しないときは直射日光の当たらない場所に保管して下さい。
- 車に乗せて運ぶ時は、しっかりしたルーフキャリアを使用し、前後に補助ロッドをとりつけて下さい。高速走行時には特に注意が必要です。
- 船型には著作権が、その他には意匠権が発生しています。
- メカと設計者の許可なくコピーすることは出来ません。
- 本書の内容は改良等のために予告なく変更されることがあります。
- ユーザー登録のため同封の登録カードに必要事項を記入の上、返送下さい。

## 各部の名称

品番	品名	個数
1	船体	1
2	センタ - ビ - ム (船体に取り付けずみ)	1
3	マスト	1
4	マストストッパ - (マストに取付ずみ)	1
5	クリ - ト	1
6	ブ - ムストッパ - (マストに取付ずみ)	1
7	ブ - ム	1
8	セ - ル	1
9	バテン	2
10	センタ - ボ - ド	1
11	ラダ -	1
12	滑車(片耳)	1
13	滑車(両耳)	1
14	ラダ - ホルダ -	1
15	ティラ - とティラー・エクステンション	1
16	ピンドル上、下 (船体に取り付けずみ)	1組
17	メインシ - ト(8mm×6.0m)	1
18	パウライン(6mm×2.7m)	1
19	ガニンガム用口 - プ(6mm×1.1m)	1
20	クリューアウトホール用口 - プ(6mm×1.0m)	1
21	滑車固定口 - プ(6mm×0.6m)	2
22	センターボード用ショックコード(ゴム6mm×0.65m)	1
23	ラダ - 用ショックコ - ド(ゴム6mm×0.65m)	1
24	ビニ - ルチュ - プ	1
25	パドル	1
26	ラダ - 取り付けネジ	1組
27	舵抜け防止ピン	1
28	ティラ - 用ショックコード(ゴム4mm×1.0m)	1
29	ラダ - ホルダ - 取り付けネジ(5×2.5蝶ネジ)	2

## 艀 装

### 購入後必要な艀装

(部品明細図参照)

- 付属の6mm口 - プを切り分ける。  
1.1m × 1本(カニンガム用)  
1m × 1本(クリューアウトホール用)  
0.6m × 1本(滑車固定用)  
0.7m × 1本(マスト抜け止め用)  
2.7m × 1本(パウライン用)  
(口 - プの切口は火であぶり溶かしてから固める。)
- センタ - ビ - ム中央の2つの穴に、滑車固定口 - プを通し滑車(両耳)を取り付ける。〔図1〕(エイトノット)
- センタ - ボ - ドケ - ス前側の穴に、センタ - ボ - ド用ショックコ - ドにひも入りピニ - ルチュ - プを通し取り付ける。〔図2〕(エイトノット)

### 艇の艀装に使う口 - プワ - ク

艀装に必要な口 - プワ - クは、次の2つだけで足りてしまいます。覚えておくと便利なので何回も練習して下さい。〔図3〕

1. ボ - ラインノット(もやい結び) 応用範囲が非常に広く、特徴としては一度結んだら自然には解けない。そして解こうと思えばどんなに固く結んであろうと簡単に解けるという結びの必要十分条件を完璧に充している。
2. フィギュアエイトノット 「ストップ - ノット」とも呼ばれコブを作る時に使う。これも作るのは簡単で解くにも苦労しない。

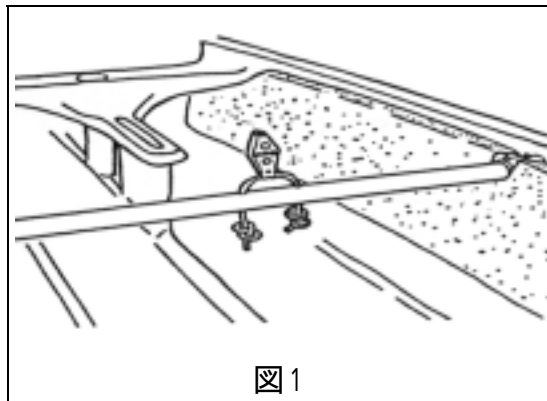


図1

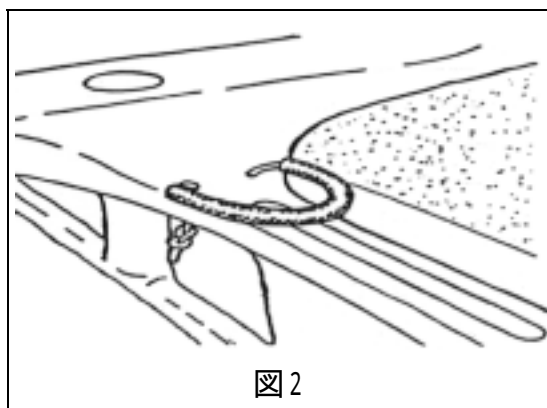


図2

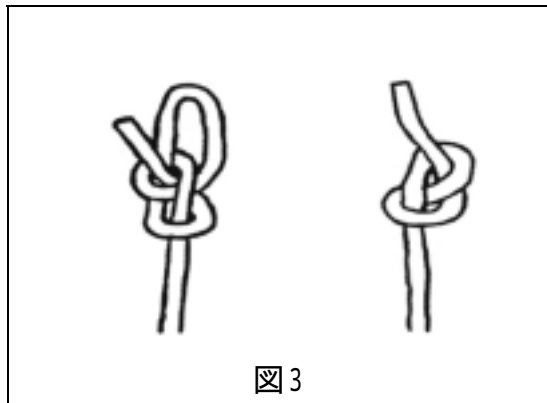


図3

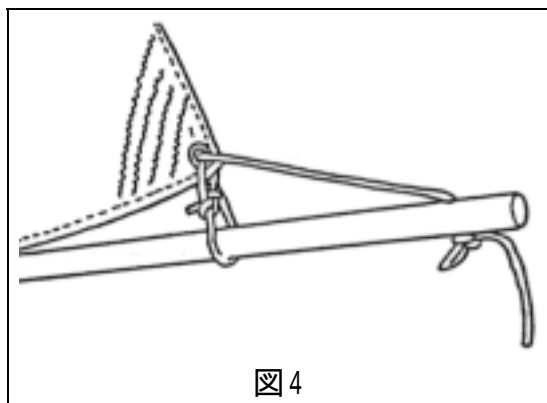


図4

## セ - リング前の艀装

(部品明細図参照)

- まずバウを風の方向に向けて艇を置き、セ - ルが風をはらんで艇が倒れるのを防ぐ。
- バウ先端の穴にバウラインを取り付ける。(エイトノット)
- セ - ルをマストに通す。
- セ - ルのパテンポケットにパテンを入れる。(2カ所)
- マストをクリ - トが後向きになるようにマストホ - ルに立てる。
- マストのブ - ムストップパ - の上にブ - ムジョ - を差し込む。(この時、ブ - ムに付いている滑車が下側になるようにして下さい。)セ - ルにクリューアウトホール用口 - プを通し、ブ - ム端の穴に結ぶ。〔図4〕(ボ - ラインノット)
- セ - ルにカニンガム用口 - プを通しクリ - トに結ぶ。〔図5 -     〕

(ボ - ラインノット)

- ティラ - 後端のラダ - ケ - スにラダ - を入れ、ラダ - が回転する程度にラダ - 取り付けネジで止める。
- ラダ - とラダ - ケ - スをラダ - 用ショックコードで〔図6〕のように結ぶ。(エイトノット)
- 船体後端のピントルにラダ - を取付け、舵抜け防止ピンで止める。
- メインシ - トを両耳滑車の上側に結び、(ボ - ラインノット)  
〔図7〕の様にブ - ムの滑車を通した後、両耳滑車の下側を通し、先端をエイトノットで結ぶ。
- マストのアイプレ - トと船体を〔図8〕のようにマスト抜け止め用口 - プで結ぶ。

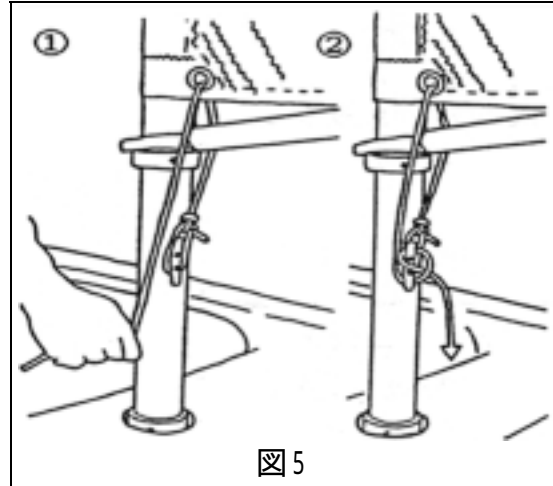


図5

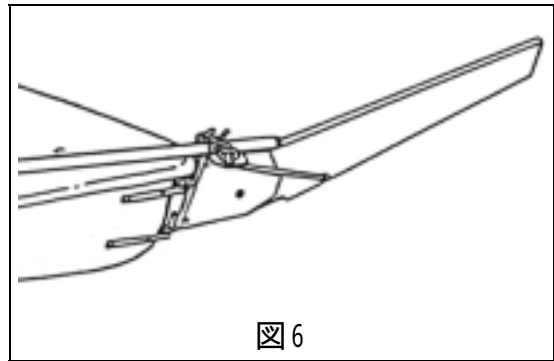


図6

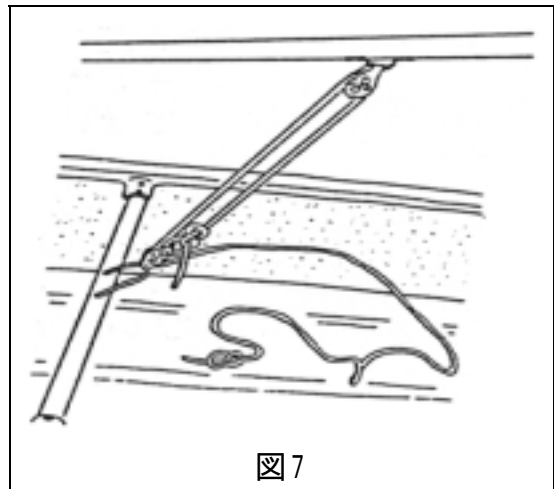


図7

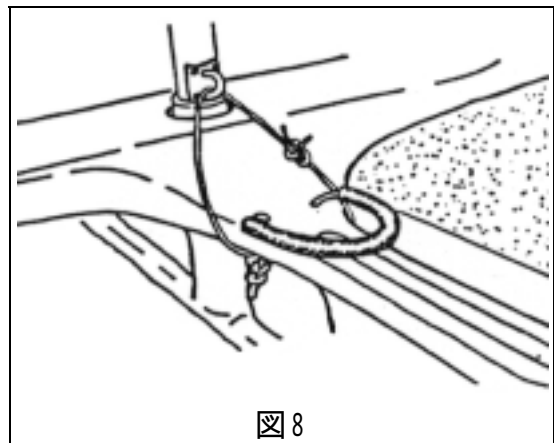
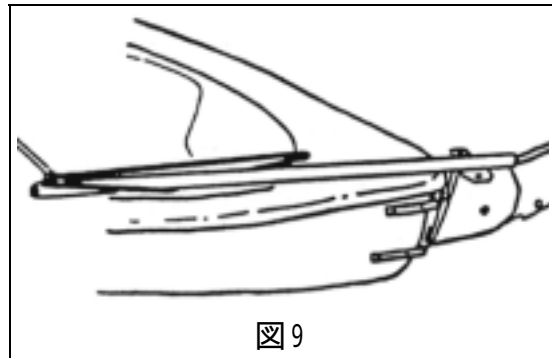


図8

- (4mmゴムロ - プ)を輪状に結び、船体後部のスウォ - ト(座席)の後部にある穴の内側から通し、外側に出す。ゴムロ - プを外側から引っ張り、結び目が船体の内側に引っ掛かかっているのを確認してから、ティラ - 前部に掛ける。

〔図9〕



## セ - リング

初めて海へ出る人は、安全を考えて風速5メートル以下のコンディション、波もあまりない時を考えて出艇するようにして下さい。そして、ライフジャケットも必ず着用するようにして下さい。

海上に出たら、まずセンタ - ボ - ドをおろし、センタ - ボ - ド用ショックコードで固定します。又、ラダ - も深くおろすことが必要です。次に自分の乗艇位置(センタ - ビ - ムの直後)が正しいかを確認します。メインシートを十分に出し、ティラ - を持ってしばらくすると、風がほぼ真横から吹く状態になります。

メインシートは、この時十分に出していますから、セ - ルも風をはらまず風になびいてバタバタと音をたてている状態となります。(この状態をシバ - といいます。)ここでティラ - を動かし、ラダ - を中央に位置させメインシートを少しずつ引き込んでみます。セ - ルは風をはらみ、艇は少し風下にヒ - ルしはじめ、艇は進み始めます。この様に直角に風をうけて走る状態をウインドアビ - ムといいます。

進行方向と風の関係にはそれぞれ名前がつけられており、以下のように分けられています。〔図10〕

クロ - ズホ - ルド

風を最大限に前から受けて走るブ - ムをいっぱい引き込んで走る。

リ - チング

風を60°前後の角度で受けて走る。

ウインドアビ - ム

風を真横から受けて走る

クォ - タ -

風を135°ぐらい後から受けて走る。

ランニング

風を真後から受けて風に押されて走る。

自由に海の上を走り、いろいろな目標地点に到達するには以上のようなセ - リングを組み合わせる事が必要になりますが、その中で必ずタックを入れ替えて方向転換する必要が出てきます。その方法としては、クロ - ズホ - ルドの状態から風上への方向転換(タッキング)とランニングの状態から風下への方向転換(ジャイピング)の2つのテクニックが必要となります。

## 沈した場合

アクアミューズ141には、独自の浮力設計により沈しても再帆走が可能です。又、平底カヌーにはみられないネバリ腰特性を持っているため、ヒールしても復元力は抜群です。

万が一、沈した場合はまずメインシートやブームバングを緩め、できるだけ艇に体重をかけずにセンターボード側にまわりこみます。

艇は浮力体の浮力で浮き上がり、艇内の水は自然に排水されます。

センターボードの先端に手をかけ体重を徐々にかけていくと、簡単に起き上がります。(図11)

乗艇するには(図12)のように、できるだけ姿勢を低くしながら両手でセンタービームのなるべく遠くをもち、肩から体を滑りこませます。

この時、体ができるだけ水面に対して水平になるように、バタ足をして下半身を浮き上がらせると乗り込みやすくなります。

なお、多少の水が艇内に入ってもセリングは可能ですが、安全の為一度岸に戻って艇内の水を完全に排水してから出艇するよう心がけて下さい。

又、風が強く波も荒い時には、艇を起こした時水が入りやすくなります。危険な状況でのセリングは、安全の為絶対に避けて下さい。

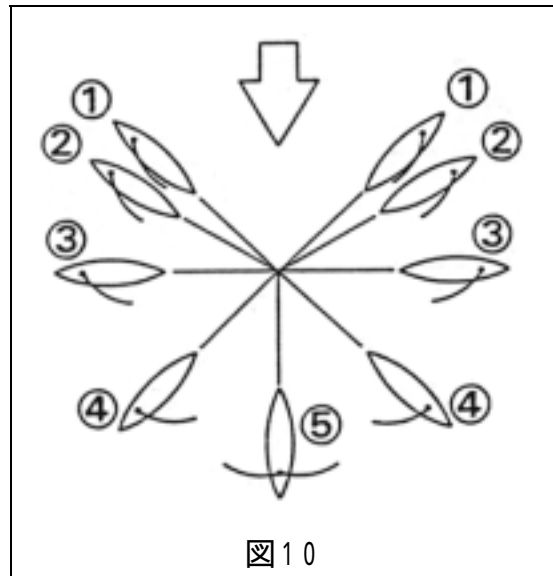


図10

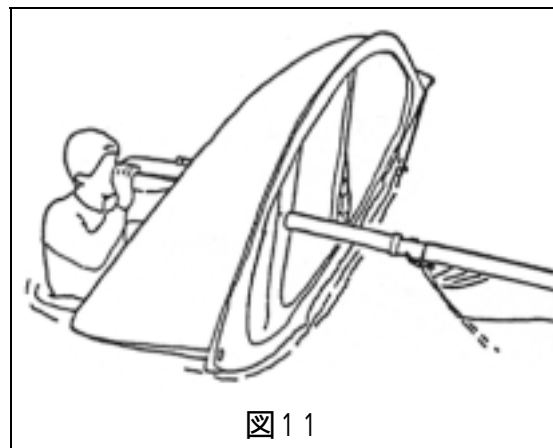


図11

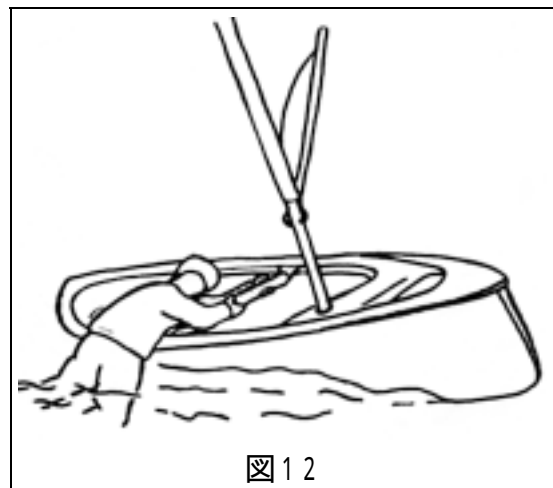


図12



## パドリング

アクアミュージック141はセルを取り付けずオープンデッキカヌーとして使用することも可能です。

### 〈乗艇位置〉

ソロ(1人乗り)の時は、センターピームの後方に爪先を立てて両膝を開いて座ります。体重は両膝と爪先の4点で支え、横ゆれに対しては両膝で受けます。この姿勢をニポジションといい、最も基本的な姿勢です。又、この位置にオプションでスウォットを取り付ける事も可能です。タンDEM(2人乗り)の時、荷物を積む時にはスタン側のスウォットに座り、バウ側に同乗者、荷物を乗せます。乗艇位置によって、性能が変わりますので船体が水平になるよう乗る位置や荷物の配置には、十分気を付けて下さい。

### 〈Jストローク〉(図13 - )

オープンデッキカヌーは、カヤックと違ってシングルブレードのパドルで漕ぎます。そして主に片舷だけを漕ぐため、パドル自体を使って舵を取らないと直進することが出来ません。この漕ぐ動作と舵取の動作を合わせた漕法をJストロークと呼んでいます。

- パドルの使い方には、少しばかりコツがあります。まずパドルの握り方ですが、パドリングを艇の右側で行う場合、左手でシャフト先端のグリップを握り、右手はシャフトのブレード側から3分の1程度のところを持つようにします。そして左手でパドルを前方へ押し出すようにしてやれば、カヌーは右前方へ進んでゆきます。この時、右手は支点となるようにし固定しておきます。

- 直進するためにはパドリングの最後にブレードを立てて、ラダーの役目をさせることが必要になります。方法としては、グリップを握った左手の手首を左にひねりながら体に引きつけます。同時に右手は、垂直になったブレードを水中につけたまま、外に押し出し舵を切ります。

Jストロークは、カヌー漕法のなかでも最も基本となるストロークです。十分練習してマスターして下さい。

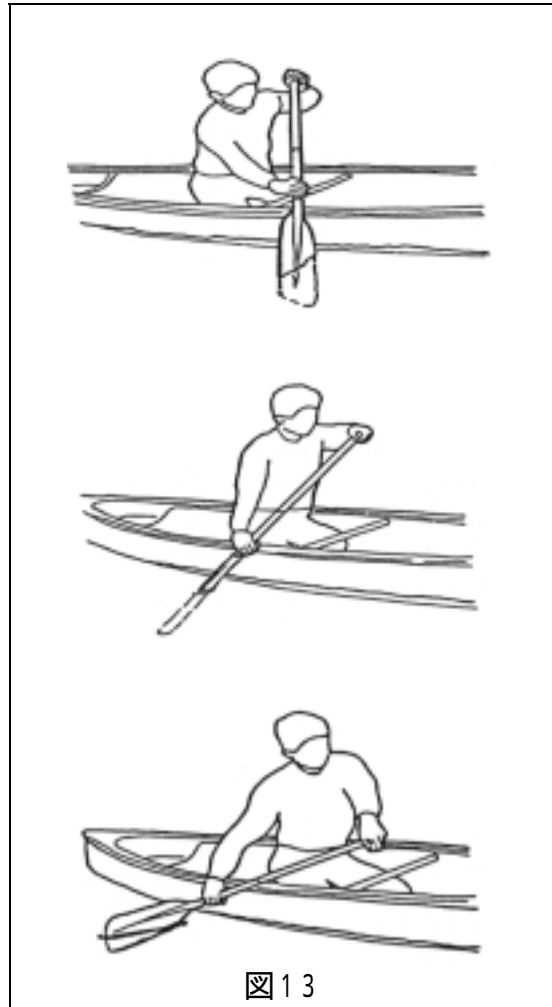


図13

## 部品価格表(税込)

● マスト (マストストップ - ,ブ - ムストップ - 付)		¥ 34,020
● セ - ル(パテン,セ - ル袋付)		¥ 34,020
● ブ - ム(滑車付)		¥ 9,450
● センタ - ボ - ド		¥ 9,975
● ラダ -		¥ 6,510
● ラダ - ホルダ - (ティラ - 、ティラ - エクステンション付)		¥ 10,080
● ロ - プ滑車セット		¥ 6,300
8mm口 - プ	6 本	
6mm口 - プ	6.1 本	
6mmショックコ - ド	1 本	
4mmショックコ - ド	1 本	
滑車(両耳)	1 個	
ビニ - ルチュ - ブ	1 個	
● ステッカ - (aqu@muse)		¥ 4,200
● ステッカ - (スヘック)		¥ 840
● 舵抜け防止ピン		¥ 210

製造発売元

藤本写真工業株式会社アクアミューズ事業部

大阪府南河内郡太子町太子121

<http://www.fujimoto-photo.co.jp>

E-mail: [info@fujimoto-photo.co.jp](mailto:info@fujimoto-photo.co.jp)

TEL (0721)98-0351(代)

FAX (0721)98-0359